

特許の成果 Achievements in Patents Granted

研究開発戦略を推進する過程で創出された成果を発明の観点から権利化している。その際、事業戦略や研究開発戦略に応じて、コア技術を中心とした特許網の構築、重点分野での集中的出願、及び事業のグローバル展開を意識した外国出願の強化を行い、技術成果の資産価値の増大を図っている。

順位	企業名	日本登録件数
1	松下電器産業	4,760
2	東芝	3,425
3	リコー	2,813
4	日立製作所	2,722
5	キャノン	2,654
6	ソニー	2,641
7	セイコーエプソン	2,627
8	デンソー	2,611
9	富士通	2,512
10	本田技研工業	2,464

* PATOLISを利用した調査結果

順位	企業名	米国登録件数
1	IBM	3,148
2	三星電子	2,725
3	キャノン	1,987
4	松下電器産業	1,941
5	インテル	1,865
6	マイクロソフト	1,637
7	東芝	1,549
8	ソニー	1,481
9	マイクロン・テクノロジー	1,476
10	ヒューレット・パッカード	1,470

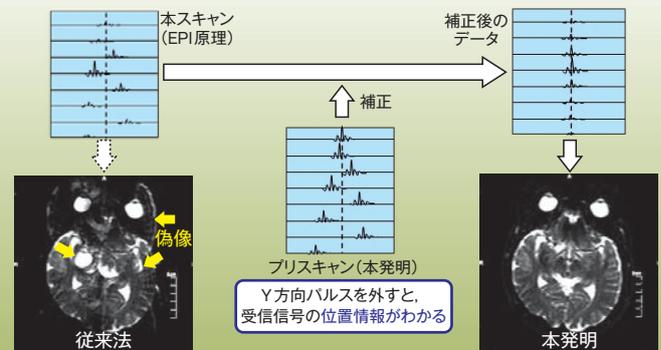
* 米IFI社データ

社団法人 発明協会から、科学技術の向上と産業の発展に功績があったことが認められ、2007年は全国発明表彰で下記の賞を受賞した。

【朝日新聞発明賞】 特許第2642362号「EPI法にて良好な画像を得られるMRI装置」

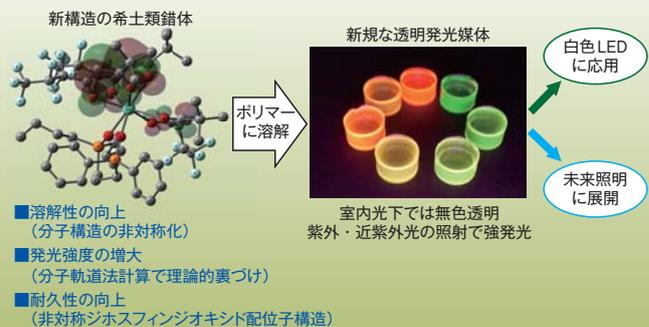
放射線の被ばくがなく、任意の断面で形態情報や機能情報が得られるMRI装置において、特にEPI(Echo Planar Imaging)法と呼ばれる超高速撮像法に関するものである。本スキャンで得た画像データを、Y方向パルスを外したプリスキャンで得た信号のピーク情報を用いて補正することで、偽像のない良好な画像が得られるようにしたことにより、EPI法の実用化の道が開かれ、MRIによる画像診断に必要な不可欠な技術として、医療の発展に大きく貢献した点が評価された。

* 東芝メディカルシステムズ(株)と共有。



【21世紀発明奨励賞】 特許第3811142号「新規希土類錯体の創製と発光素子への応用」

太陽光や室内光の下では無色透明で、紫外光や近紫外光が照射されると強発光する透明発光媒体と、これを活用した白色LED(発光ダイオード)に関するものである。2種類の異なるホスフィンオキサイドが一つの希土類イオンに配位する非対称な分子構造の希土類錯体を用いることで、媒体に対する溶解性(透明性)、発光強度、及び高温・高湿に対する耐久性を大幅に向上させることができ、人にやさしい照明空間や新表示システムの創製が期待される点が評価された。



【発明賞】 特許第3346902号「超小型・大容量HDD用磁極分離型磁気ヘッド」

記録・再生ヘッドを一体化した磁極分離型磁気ヘッドに関するものである。従来、壁とされていた10 Gビット/in²をはるかに超える200 Gビット/in²の高記録密度化を達成し、大きな記録磁界と十分な再生出力を併せ持つ、超小型・大容量HDD用磁気ヘッドを世界で初めて実用化した。更に、この磁気ヘッドは事実上の世界標準としてほとんどのHDDに搭載されており、高度ユビキタス社会におけるストレージ基盤の構築に大きく貢献している点が評価された。

